

第4ブロック研究部



No. 3

令和7年度 研究主題

遊びの中の学びを探る

研究園

五条 真田山 味原 大江 生魂 鶴橋
常盤 長吉 長吉第二 瓜破北 加美北

7月 第3回研究部会

日 時 令和7年7月9日(水) 13:00~17:00

場 所 大阪市立大江幼稚園

【研究保育当日の保育のねらい】

3歳児 好きな遊びを見つけ、自分なりにやってみたり考えたりする中で、いろいろなことに気付き、先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ

4歳児 好きな遊びを見つけ、先生や友達と関わりながら考えたり思いを伝え合ったりして一緒に遊ぶことを楽しむ

5歳児 友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いや考えを出し合いながら、協力したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ

当日の遊びの様子

お化け屋敷ごっこで遊ぶ



この穴から
よく見えるよ
うにしたいな
(面づくり)

土粘土で遊ぶ



ダンスや体操をする



店屋さんごっこをする



分科会

遊びごとのグループに分かれ、以下の視点で討議しました。

視点① 幼児が心を動かして遊ぶ中で、どのような学びにつながる姿が見られたか

視点② ①の姿の中で、どのようなことを学んでいたと考えられるか

視点③ どうして①のような姿が見られたのか

【店屋さんごっこ・乗り物ごっこ】

- ①
 - ・ケーキにロウソクを立てようと、何度も倒れても諦めずに接着しようとする姿
 - ・素材の柄を選別して透明、不透明と分けて使う姿
 - ・3歳児がケーキづくりをする中で、「このテープちょうどいい」と4歳児や教師に声をかける姿
 - ・ジュースに蓋を閉めたくて、素材の入れ方を変えたり量を減らしたりする姿
 - ・言葉のやりとりよりも、黙々とつくる姿
- ②
 - ・テープの種類、素材の数や色、テープの付け方など、自分のつくりたいイメージの実現に必要なものを選んだり、方法を考えて試したりする
 - ・自分なりに言葉で伝えようとする
 - ・カップの蓋を閉められるように、カップに合う入れ方を試行錯誤する
 - ・ペットボトルとカップの口の広さの違いに気付いたり、多く入れるためにはどうしたらよいか、試したりする
- ③
 - ・友達や教師の姿がすぐそばに見える安心感
 - ・答えを急がず子どもが自分で考え、気付けるような教師の言葉かけ
 - ・思わず手に取ってやってみたいと思う様々な素材が十分にあることや、明日も続きをしたいと思うような魅力的な環境

【お化け屋敷ごっこ】

- ①
 - ・受付に人がいないことに気付いて、自分が店員になって話すことを考えて対応する姿
 - ・お面の目の穴を、自分の目の位置に合わせるために調節して何度も試そうとする姿
 - ・お化け屋敷の世界を楽しみ、お化けになりきったり、スタンバイして驚かすタイミングを考えたりする姿
- ②
 - ・自分なりの言葉で少しづつ相手に伝えようとする
 - ・様々なテープの中から粘着の違いに気付く
 - ・遊びがより楽しくなるように自分なりに工夫する
- ③
 - ・それぞれが自分なりのイメージをもちやすい、遊びたくなるような環境
 - ・教師が、子どもたちの発想やつくり上げてきた過程を大切にしていること
 - ・隣につくる場所があることで、子どもたちが考えたことがすぐに実現できる環境

【土粘土で遊ぶ】

- ①
 - ・落ち着いて夢中になって遊ぶ姿
 - ・土粘土をたこ糸で切るときに、糸の引き加減を繰り返し試す姿
 - ・粘土を大きな塊にしようと、手でたたいたり、足で踏んだりする姿
- ②
 - ・粘土の性質を知り、感触を楽しむ
 - ・たこ糸で引っ張ると粘土が動くので、足で押さえたら動かず切りやすいやことや、糸を当てて転がして一周すると切りやすいやことなどに気付く
 - ・繰り返し試したり挑戦したりする意欲
- ③
 - ・たこ糸にリングを付けたり、土粘土が四角に整えられていたりして子どもが扱いやすい環境
 - ・教師が何を大切にし、子どもに何を経験させたいのか、ねらいが明確

【ダンスや体操をする】

- ①
 - ・自分の好きな曲の順番がくると、舞台に出てきてダンスをする姿
 - ・曲に合わせてその都度手具を持ち替えたり、動きを変えたりする姿
 - ・沢山の衣装を身に着けて一番前で踊り、見ている人にアピールする3歳児の姿
 - ・マラカスの中身のビーズが飛び出たときに、テープを蓋の長さちょうどに切って貼り付けようとする姿
- ②
 - ・曲調の印象や違いに気付き、自分なりに表現して踊る
 - ・好きな曲を見つける力や自信がつき、集中したり、自己発揮したりする
 - ・曲に合う手具を自分なりに考える
 - ・蓋が外れないようにするための方法に気付く
- ③
 - ・プログラムの掲示物が分かりやすく親しみやすい
 - ・センターに出られるような形のステージを教師が子どもと一緒につくった環境
 - ・扱いやすい用具や聞き馴染みのある音楽、心地よい音楽やなりきれる装飾品などがある環境
 - ・休憩できる椅子があることで自分のタイミングで参加でき、待っている間も気持ちが途切れずに楽しめる環境

指導講評

大阪市総合教育センター 教育振興担当 指導主事

- ・本時の活動では、それぞれ曲のイメージを自分なりの動きで表現する姿、素材の感触の違いを比較しながらパン屋さんごっこでパンをつくる姿、盆いっぱいに載せたパンを友達と協力して運ぶ姿、お化け屋敷ごっこで脅かし方を何度も試す姿、また教師や友達の様子を見て真似て取り入れようとする姿など様々な「考えたり工夫したりする姿」が見られた。そこに、学びにつながる姿があったのではないか。
- ・幼稚園教育要領で示されている三つの資質能力において、基礎は小学校教育の生活科の部分と同じなのではないかと考える。小学校教育では到達目標があり、そこに向かって意識的に実践していく。幼稚園では、子どもが自ら気付いていくために教育的意図をもった働きかけや、環境の工夫を行っていく。といったところに違いがある。
- ・資質能力の中の「思考力」について、「考える」という中には、見通したり、比較したり、分類したり、順序づけたりするなど様々な姿がある。子どもがどのような思考を働かせているのか、教師自身が把握しておかなければならない。遊びの中でのそのような姿を大切にしていきたい。
- ・幼児を捉える視点として、「行動と背景」「子どもの視点の尊重」を大切にしてほしい。ねらいをもって捉えることで、小学校への接続のステップにつながるのではないか。
- ・保育案作成時や保育後の振り返りの際に、子どもの様々な学びについて、また育ちや変容について教師間で話をすることが大切である。



学んだこと

- 幼児が遊びの中で表現したり思いを伝えたりするとき、その幼児なりに気付いたことを取り入れ、考えたり工夫したりしている。その姿が学びにつながることが分かった。
- 幼児がどのようなことを学んでいるか多面的に捉えられるよう、教師間で話し合いを重ねながら共有していくことが大切であると学んだ。
- 幼児の行動と背景に目を向け、子どもの視点を尊重することを意識しながら、長期的な視点で学びを読みとることが大切であると学んだ。